

第6回「外国人との共生社会の実現のための有識者会議」 議事録

開催日時：令和3年7月28日（水）

午前10時00分から午前11時58分まで

於：オンライン開催

〔出席委員〕

田中座長，池上委員，佐藤委員，高橋委員，田村委員，林委員

〔省庁出席者〕

（出入国在留管理庁）

佐々木長官，佐藤審議官，君塚在留管理支援部長，近江政策課長，木村外国人施策推進室長

（内閣官房）

初又内閣参事官

1 開 会

○木村外国人施策推進室長 本日も御多忙のところお時間を頂きまして，誠にありがとうございます。

定刻になりましたので，ただいまから第6回外国人との共生社会の実現のための有識者会議を始めさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症の感染状況等を考慮し，本日もオンラインにより会議を開催することとなりました。御不便をお掛けしますが，どうぞよろしくお願い申し上げます。

配付資料の御説明をさせていただきます。

本会議の議事において使用する資料として，意見書（案）の本文と，その見え消し版，意見書（案）の概要を配付させていただいております。見え消し版については，前回会議以降，2回の御照会をしておりますけれども，7月9日に委員の皆様方に照会させていただいた案から変更になった部分について見え消しの形で記載しております。また，概要（案）も今回作成し，提出させていただいております。そのほかの参考資料として，関係者ヒアリングの結果概要を配付させていただいております。

それでは田中座長，進行をお願いいたします。

○田中座長 委員の皆様おはようございます。関係省庁の皆様方もよろしく願いいたします。

それでは、第6回外国人との共生社会の実現のための有識者会議を開始したいと思います。

2 議 事

意見書（案）について

○田中座長 早速議事を進めてまいりたいと思います。

本日の議題は、「意見書（案）について」ということで、最終的に意見書（案）を取りまとめさせていただきたいということでもあります。

前回会議における委員の皆様方の御意見等を踏まえて、事務局において修正していただいた意見書（案）について、御意見を頂くという段取りになっております。本日の議論では、委員の皆様方から意見書（案）に対する御意見を伺って、これの集約に努めてまいりたいと思います。それから、今回提出された概要（案）についても御意見があれば併せて頂ければと思います。

配付資料である意見書（案）及びその概要（案）については、公にする前のものでもありますので、前回同様公表せずに、出入国在留管理庁のホームページへの掲載も差し控えるということにしたいと思っております。

それから、委員の皆様方に御自由な御議論を頂くために、この意見書（案）に関する御発言部分については、前回同様、議事録では公表しないような取扱いにしたいと思っておりますが、そのような方向で取り進めるということでご了解いただけますでしょうか。

それでは御了承いただきましたので、そのように進めたいと思います。意見書（案）の取扱いについては、これは最終的には関係閣僚会議に提出させていただくときに公表ということでございますので、それまでは十分御注意いただきますようお願い申し上げます。

それでは、事務局から前回会議における委員の皆様方の御意見等を踏まえて、修正いただいた意見書（案）について説明していただいて、その後、委員の皆様方から御意見を順番に頂きたいと思っております。それでは、事務局から説明をお願いいたします。

○近江政策課長 ※非公表資料に係る発言につき、非公表

○田中座長 どうもありがとうございました。

それでは、今の御説明を受けて、委員の皆様方から順番に意見書（案）及び概要（案）に対して御意見を頂きたいと思います。

恐縮でありますけれども、10分程度で御発言いただくと有り難いと思います。

※ 非公表資料に係る発言につき、非公表

○田中座長 どうもありがとうございました。

それでは、実質的な審議はこれで終わりということであります。

ここからは、ここまで6回会議を行っていただきましたけれども、振り返っていただいて、簡単に各委員から御感想あるいは今後の政府に対する御意見など含めて、お一方2分以内ぐらいで御発言いただくと有り難いんですけれども。

池上委員からお願いできますか。

○池上委員 池上でございます。

まず、今回、ほぼ半年の間で毎月1回会議をやってタイトな時間での会議でした。しかしながら、今日のまとめを改めて見て思いますけれども、大変有意義な、そして将来展望を持った意見書がまとまったなと思っています。田中座長のハンドリングはもちろん、事務局の皆さんの御苦勞にも、私、大変感謝しております。

特に事務局の皆さん、とても丁寧な対応をしてくださったなというのが、私の率直な印象です。ありがとうございました。

私がこの会議に出席する位置付けというのは、浜松という外国人集住都市のど真ん中で二十数年大学教員をしている、そして地域のいろんな方々と関わっているという、その定点観測の視点からのインプットだったのかなと思っています。

改めてその視点で振り返ってみると、今年2021年ですけれども、90年体制が始まってから30年経って、1世代回っているというところ、これを改めて最後に申し上げたいなと思います。

今年3月に、浜松国際交流協会が主催したオンラインイベントで、定住外国人の第2世代の若者たちが企画して、運営して、司会も行って、発表してというイベントを見たんですね。私は、全くそれにタッチしていません。それをオーガナイズしたのが、私たちの大学院を修了した国際交流協会のスタッフでした。第2世代の若者たちが、100%自分たちの力でそういう発信をしている姿を見て、本当に私、感動しました。もう自分はやることないなとすら思ったんですね。

東京で見ていると、どうやって外国人労働力を確保するかというところが議論の焦点になりがちだと思います。恐らく今、皆さんは技能実習、特定技能ということで、アジアからの労働力をどうやって確保するかというところに力点があって、日系人のことは、もう過ぎていく問題だということに見えるのかもしれないけれども、外国人と分類される人たちが非常に多様化しているということ。ヨーロッパ的な段階に、今、日本も入りつつあるのかなということ、改めて最後に皆さんと共有したいと思います。日本人、外国人という二分

法だけで考えている時代から、もう少し複層的なというか、複合的なというか、そういう議論の視点が今後更に必要になるんじゃないかなと思っております。

半年間、どうもありがとうございました。

○田中座長 どうもありがとうございました。

それでは、順番で佐藤委員お願いします。

○佐藤委員 まず、半年間、議論に参加させていただいてありがとうございました。

私は、もともと教育を専門にしていますので、他の領域、就労であるとか、情報発信・提供、外国人の地域参加などについて考える機会を頂いて、随分いろんな刺激を受けましたし、改めて教育を取り巻く施策について幅広く考えることができました。

この施策で是非これから期待したいなと思うところは、一つは、次から次へと新しい施策が積み上げられていくことが多いですが、これまでの施策の評価をやっぱりする必要があると思います。

※ 非公表資料に係る発言につき、非公表

最後に、共生施策、多くの省庁にまたがりますので、今回も事務局の取りまとめ、大変御苦勞があったと思いますけれども、是非出入国在留管理庁にイニシアチブを取っていただいで進めていただくことを期待しています。

どうもありがとうございました。

○田中座長 どうもありがとうございました。

それでは、高橋委員お願いします。

○高橋委員 ※ 非公表資料に係る発言につき、非公表

それから、感想を申し上げますと、私も最初、外国人対日本人という発想がかなり強かったんですけども、皆さんのお話を伺っていて、やっぱり共生社会をどうつくっていくかというところに考えが随分変わってきて、大変勉強になりました。ありがとうございました。非常に良い取りまとめになったと思います。

あとは、これから法務省として関係省庁との調整とか、それから自治体との対話、これ非常に重要だと思います。相当、力業というか、力が要る仕事になると思いますけれども、是非とも施策体系を工程表に落としていただいで実行していただければと思います。

※ 非公表資料に係る発言につき、非公表

以上です。

○田中座長 どうもありがとうございました。

それでは、田村委員お願いします。

○田村委員 私も大変勉強になりました。ありがとうございました。

とても小うるさいことをたくさん言いましたけれども、我々この構成員というのは報告書に名前が載ります。後々まであれを作ったメンバーだよねって言われるなというのが、総務省の多文化共生推進プランを2006年3月に出したときにもありまして、たくさん意見を述べさせていただきました。

今回の意見書についてもこれはどう受け止めて、地域として何を進めていけばよいのかという問合せが、当然、法務省出入国在留管理庁の方にもいくでしょうし、関係省庁にも、ここに日本語をこうすると書いてあるけどどうするんだという問合せは多分いくでしょうし、これからが勝負だろうなど、今までの経験上も思います。絵に描いた餅にしないためにどうしたらいいのかというところを考えたいですね。

※ 非公表資料に係る発言につき、非公表

それから、工程表を作りますということが総合的対応策に書かれてあるので、これが非常に重要だと思います。これまでの総合的対応策も、本当にこの2019年の改正入管法施行以降、随分と施策は踏み込んでいるように感じるんですが、やっぱり自治体としては単年度だよねと、これは続くかどうか分からないので、本予算入れて、自治体の本体事業としてやるのはちょっとまだちゅうちょするんだよと、こういう声がやっぱりどこ行っても聞かれます。私、今日もこの後、2つオンラインが入っていますけれども、ほぼ毎日どこかの自治体の声を聞くんですね。

やっぱり自治体としても、もうやらなきゃいけないと分かっているんですけど、腰を据えてやるには、政府としても腰を据えてやるんだ、向こう何年間か必ずこういう方向でやりますよというファイティングポーズを見せていただくということが、地域での取組を後押しする上でとても重要でして、今回の意見書が自治体の背中を後押しする、あるいは地域の事業所やNPOや外国人の方自身の、正にこれから地域で一緒にやっっていこうということを後押しするような、そういうものになってほしいなと思いますし、

※ 非公表資料に係る発言につき、非公表

おおむね良いものが私はできたように感じておりますので、これを是非絵に描いた餅にせずに、良いものとして血や肉をつけていく、そういう作業に今後も汗をかけたらなと思いました。

今回、大変貴重な機会を頂きましてありがとうございました。以上です。

○田中座長 どうもありがとうございました。

それでは、林委員。

○林委員 もう半年も経ってしまったのかと思って驚いているところなんですけれども、もうこの半年間、全く対面にお会いすることなくこういう話が進んで、対面できずに名刺も渡せずということで、ちょっとそれは残念なことでもある

とは思っていますが、本当に事務局の方々には真摯に対応していただきまして、そこまで丁寧にご対応いただけたのかと、もう驚くぐらいだったという感じでございました。座長も本当に取りまとめありがとうございます。

事務局の方には、こういう統計を出してほしいという話をちょっとしたところ、2020年12月の在留外国人統計はピボット形式で、いろいろな在留資格や性別、年齢を組み合わせた形ですぐに見られるようになったということで、やっぱりこの対応のレスポンスネスということがすごくあるなと思ってびっくりしているところですし、今回私もすごく勉強させていただいて、というかこれまで余り理解してなくて申し訳ないぐらいだったんですが、総合的対応策やSDGsアクションプランを含め、ここまで日本はいろいろやっているということに驚きつつ、やっぱりもっと発信していくべきだなと思っているところです。

特に、5年ぐらい前は日本の外国人の子供の教育に関し、何にもないと皆さんいろいろなところで言っていたのが、もう今は今日のこの意見書でもすごく大きな柱になっているということも本当に素晴らしいなと思っております。

国立社会保障・人口問題研究所でも引き続きこの外国人に関する研究も続けていきますし、今年の、年に1回行う厚生政策セミナーというのがあるんですが、そこで送出国からの視点に関するセミナーを、まだちょっと時期は未定ですが、今年度の終わり頃にハイブリッドかオンラインで行う予定ですので、また御連絡いたしますし、皆様方にも見ていただいていたほしいなと思っています。

今この時代、去年からコロナ禍であり、特にタイやインドネシア、非常にコロナが今すごくもう大変という話になっていて、コロナのためにこの外国人の話は非常に影響も受けているし、受けていないところもありますが、去年については非常に大きく在留資格を変えるとか、そういう柔軟な対応もあったようですし、これはまたこれまでどおりのように、機敏にこういった変わっていく状況に応じて対応していく政策が強いられるのだろうなと思っておりますし、そうしたところも発信していく必要があるだろうなと思っております。

とにかく本当に勉強になりました。ありがとうございました。

○田中座長 どうもありがとうございました。

それでは、委員の皆様方から御発言いただきましたので、次は最後ということで、出入国在留管理庁を代表して、佐々木長官からお言葉を頂ければと思います。よろしくお願ひします。

○佐々木長官 田中座長、そして委員の皆様方、御無沙汰をしております。この半年にわたりましてお忙しい中、非常に幅広い観点からの御意見、御提言を頂きましたことに感謝を申し上げます。

毎回の先生方の御発言の報告を受け、また今日お取りまとめをいただきつつ

あるこの報告書を拝見して、私の一番の今の思いといたしましては、これまでもちろん事が起きている自治体の皆様の渾身の取組ですとか、総務省の多文化共生推進プランの策定等の取組がありながらも、やはり政府全体としてこうしたビジョンづくりですとか、行く方向性を定めるということをもっと早くにやっておくべきだったということを感じております。ただ、そこでくよくよしていても仕方がありませんので、いかにこれを進めていくかということにみんなで力を合わせていかなければいけないと覚悟しているところでございます。

総合的対応策をつくって、その背景にこういう方向に向かっていくんだろかなというビジョンはありながらも、それは抽象的なものでした。今回、先生方にその抽象的なビジョンの具体化をしていただいたと思っています。これからは、その具体化していただいたビジョンの正に現実化といいますか実現、これに向かっていかなければいけないと思っています。最後、先生方から御示唆、そしてお励ましのお言葉も頂きましたけれども、是非工程表を作って、いつまでにどういう社会をつくるのかということをお示ししつつ、そしてちゃんとそれに向かって進んでいるかという検証も含めて着実にやっていきたいと思っています。

最後、林委員から新型コロナウイルス感染症のお話がありましたけれども、今回、正に御議論いただいている中、それから去年からこの新型コロナウイルス感染症の発生、そして拡大がありまして、外国人の方に関連してLeave No One Behind（リーブノーワンビハインド）ってこういうことかということを感じておりました。情報提供にしても、これから外国人の方へのワクチン接種をどうやって進めていくかというお話もあると思います。

それから帰国できないでいらっしゃる方、それから外国人の方で入国できず困っていらっしゃる方、いろんな問題が発生をしておりますので、こういうときにどう対応するか、つまり非日常のときに恐らく力量というのは問われるんだと思いますので、ケーススタディと言ってよいか分かりませんが、正にこうした事案にどう対応するかということから学んでいく、いろいろ考えていくということが全体的なこの共生社会に向かっての道を進める上で非常に大事なことだと思っています。

コロナ禍が起きなければその方が良かったとは思いますが、起きてしまったことから学びを得て、またいろいろな施策、政策を充実させていきたいと思っています。

いずれにいたしましても、この会議自体は今日でお閉めいただくのでありますが、私たちまだまだやらなければいけないことがありますので、その過程で是非先生方の御示唆、お導きを頂ければと思いますので、そのお願いを最後にさせていただきまして終わりにしたいと思います。

本当にありがとうございました。

○田中座長 佐々木長官，どうもありがとうございました。

最後になりましたけれども，私からも一言だけ感想を申し上げさせていた
きたいと思うんですが，本当にこの6か月の間でこの外国人を含めて新しい日
本社会をつくっていくという課題というのは，大変なスコープを持った課題だ
なと思いました。

私も出入国管理政策懇談会とかに関与させていただいたので，少しばかりは
外国人の状況について分かっているようなつもりでもいたんですけども，今
回，やはり委員の先生方から様々な観点，私ども余り気がついていないところ
まで含めて教えていただいて，毎回毎回学ぶところが多かったということで，
本当に感謝しております。

それで，そういうことを伺った上で，それでもまだまだ全貌はつかめていな
いという感じではありますね。日本社会の様々なところでいろんな現実が今動
いている。これを何とかつかまえていかないといけない。そのために統計も必
要だし，それから事務局の方が一生懸命になってやっていただいた関係者への
ヒアリングというの，まだまだ進めていかなきゃいけないということだろう
とっております。

※ 非公表資料に係る発言につき，非公表

もう既に20年前とは，日本社会はとても違う社会になっていますし，10
年前とも相当違う。このまま放っておいても今後の10年後で大分違うんだろ
うと思うんですけども，その今後の10年でどれだけ良い社会に持っていか
るかというところが，今の日本社会にとっての大きな課題になっていると思
うんですね。

※ 非公表資料に係る発言につき，非公表

これは関係省庁大変数多くあって，それぞれの省庁の皆さん，今までのやり
方を変えていかなきゃいけないというところが多いので大変だと思うんです
けれども，是非この法務省出入国在留管理庁が中心になって，着実な実施がで
きるように進めていっていただければと思っております。

今，この新型コロナウイルス感染症の下で結局6回の会合，全部オンライン
でやるという，これまた何と言うんでしょうか，1年半前だったら考えられも
しないようなやり方でやってきたわけですけども，大分，委員の皆様方ある
いは私も含めて習熟してきたので，こういうやり方でも相当実質的に意味のあ
ることができるということが分かったというのは，これは一つの収穫だったん
じゃないかなと思っております。

ただ，その中でも，やはり事務局の皆さんが大変丁寧に会議の記録を取った
上で，それぞれの先生方の意見をできる限り反映するように御尽力いただいた

ということは、大変有り難いことだと思っております。委員の先生方の御貢献に感謝すると共に、事務局の御努力に深く敬意を表したいと思っております。

私自身は十分座長としての役目を果たしてこなかったんじゃないかと内心じくじたる思いがありますけれども、委員の皆様方からの御協力で何とか報告書をまとめることができるんじゃないかと思っております。

※ 非公表資料に係る発言につき、非公表

6か月、長いと言えば長いし、短いと言えば短いわけでありましてけれども、大変インテンシブな議論ができたことを委員の皆様感謝申し上げまして、それで私の最後の感想とさせていただきます。

それでは、委員の皆様から更にこの際言っておきたいということ、何かございますか。もしなければ、長官からもお話を伺いましたし、またこれから事務局からもまだ先生方にいろいろ御連絡あるかと思っておりますけれども、よろしく願います。

3 閉 会

○田中座長 これをもちまして外国人との共生社会の実現のための有識者会議を終了したいと思います。

どうもありがとうございました。

—了—